

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (单元名)	精神看護方法論Ⅰ	単 位 数 (時間数)	1 単位 30 時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経歴)</small>	①児玉 健介 (別府医療センター・精神科医長) ②二宮 大雅 (別府医療センター・精神科医師) ③牧野 麻友 (別府医療センター・精神科医師) ④渡辺 祥平 (別府医療センター・精神科医師) ⑤吉田 紗奈江 (別府医療センター・看護師10年)		

<科目目標>

対象に起こっている症状や行動から、必要な一時的または継続的な治療及び支援における基礎的な知識および対応について理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法	担当講師
1・2	1. 精神障害の理解 1) 精神症状論と状態像 2) さまざま精神症状 (1) 思考の障害 (2) 感情の障害 (3) 意欲の障害 (4) 知覚の障害 (5) 意識の障害 (6) 記憶の障害 (7) 局在症状	講義	①
3～5	3) 診断と疾病分類 (1) 診断と疾病分類 (2) 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害の症状と治療 (3) 気分＜感情＞障害：双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群の症状と治療 (4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害：恐怖性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害、解離性障害、身体表現性障害、その他神経性障害の症状と治療 (5) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群：摂食障害、睡眠障害、性同一性障害の症状と治療	講義	②
6～8	(6) パーソナリティ障害の症状と治療 (7) 器質性精神障害：認知症、症状精神病の症状と治療 (8) 精神作用物質使用による精神および行動の障害：アルコール依存、薬物依存の症状と治療 (9) 神経発達障害群の症状と治療 (10) 秩序破壊的・衝動制御・素行障害群の症状と治療 (11) 心身症の症状と治療 4) 臨床検査 (1) 脳波検査 (2) 知能検査 (3) 記銘力検査 (4) 人格検査 (5) 脳の画像検査	講義	③
9～11	5) 精神科での治療 (1) 身体療法(薬物療法) i. 抗精神病薬 ii. 抗うつ薬 a. 三環系抗うつ薬 b. 四環系抗うつ薬 c. SSRI d. SNRI iii. 抗躁薬 iv. 抗不安薬 v. 睡眠薬 vi. 抗てんかん薬 vii. 抗パーキンソン薬	講義	④

回	授業内容	授業方法	担当講師
9～ 11	(2)電気けいれん療法 (3)精神療法 i. 支持療法 クライアント中心療法 ii. 表現療法 芸術療法 iii. 洞察療法 精神分析、交流分析、フォーカシング 森田療法、内観療法 (4)行動療法およびリラクゼーション i. 行動療法 ii. 認知療法 認知行動療法 iii. 社会生活技能訓練 iv. 自律訓練法 v. バイオフィードバック 6)精神科の治療と身体へのケア (1)抗精神病薬の有害反応 ①パーキンソニズム ②アカンジア ③ジストニア ④遅発性ジスキネジア ⑤悪性症候群 ⑥肺動脈血栓 塞栓症 ⑦麻痺性イレウス ⑧水中毒 ⑨横紋筋融解症 ⑩リチウム中毒 ⑪高プロラクチン血症 ⑫メタボリックシンドローム 糖尿病 非定型抗精神病薬との関連 ⑬肺炎 窒息 サブスタンスPとの関連	講義	④
12	7) 緊急事態の対応 (1)自殺 (2)暴力 (3)無断離院	講義	①
13	2. 精神科における身体へのケア 3. 身体にあらわれる心の痛み 4. 精神科の治療と身体ケア 1) 精神療法としての身体ケア 2) 抗精神病薬の有害反応への看護 3) 電気けいれん療法の看護	講義	⑤
14	5. 精神障害者に起こりやすい身体合併症の看護 1) メタボリックシンドロームの看護 2) 糖尿病の看護 3) やせ(るい瘦)の看護 4) 肺炎の看護の看護 5) 窒息の看護 6) 骨折の看護 7) 齲歯の看護 8) 起立性低血圧の看護 9) 肺動脈血栓塞栓症の看護 10) 悪性新生物の看護	講義	⑤
15	6. 精神科における身体へのケアの実際 1) フィジカルアセスメント 2) 回復段階に応じた身体へのケア 3) 日常生活における身体ケア 4) 睡眠の援助	講義	⑤
<b>授業の進め方</b> 1～11 講目では、精神看護の対象となる主な疾患・障害の特徴について、症状/検査/治療と体系的に学ぶことができるようにする。精神疾患・障害の主な治療である薬物療法の有害反応や影響について薬物療法と関連させて学ぶことができるようにする。 12～15 講目では、治療(薬理作用、副作用)、症状による影響から考え、身体のアセスメントに必要な知識を習得する。			
<b>テキスト</b> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院) ①②③④⑤ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院) ⑤			
<b>評価方法</b> 筆記試験			

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名 (单元名)	精神看護方法論Ⅱ	単 位 数 (時間数)	1 単位 30 時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①立石 恵理 (別府医療センター・看護師・14年) ②石井 俊介 (別府医療センター・副看護師長・14年) ③中島由美子 (大分医療センター・看護師長・専任教員/看護師 28年)		
<科目目標> 精神障害をもつ対象の症状や行動から、必要な治療や看護を理解する。そして対象に起こっている症状や行動から、一時的または継続的な看護に必要な技術と態度を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 患者の権利擁護 1) 当事者の自己決定の尊重 2) 入院患者の基本的な処遇 2. 入院治療の目的と意味 1) 入院の目的 2) 入院時のアセスメント 3. 治療的環境 1) 治療と環境 2) 治療的環境の要件 3) 治療的環境と看護師	講義	①
2	4. 生きる力と強さに着目した援助 1) レジリエンス 2) リカバリ 3) ストレングス (強み) 4) エンパワメント 5. 社会復帰・社会参加への支援 1) リハビリテーションの概念 2) 長期入院患者の退院支援 6. 社会資源の活用とケアマネジメント 1) 精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方 2) 社会資源の活用とソーシャルサポート	講義	①
3	7. 安全管理 1) 病棟環境の整備と行動制限 2) 自殺、自殺企図、自傷行為 3) 攻撃的行動、暴力、暴力防止プログラム 4) 災害時の精神科病棟の安全確保	講義	①
4	8. 家族への看護 1) 家族のストレスと健康状態のアセスメント 2) 家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント 3) 家族システムのアセスメント 4) 家族への教育的介入と支援 5) 患者-家族関係	講義	①
5	9. 不眠の対象の看護 1) 不眠の要因 2) 不眠が日常生活に及ぼす影響 3) 不眠のある対象・家族への看護	講義 演習	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
6	10. 不安緊張状態・パニックの対象の看護 1) 不安緊張状態・パニックの要因 2) 不安緊張状態・パニックが日常生活に及ぼす影響 3) 不安緊張状態のある対象・家族への看護	講義 演習	③
7	11. 妄想・幻覚状態の対象の看護 1) 妄想・幻覚状態の要因 2) 妄想・幻覚状態が日常生活に及ぼす影響 3) 妄想・幻覚状態にある対象・家族への看護	講義 演習	②
8	12. 抑うつ状態の対象の看護 1) 抑うつ状態の要因 2) 抑うつ状態が日常生活に及ぼす影響 3) 抑うつ状態にある対象・家族への看護	講義 演習	②
9	13. 躁状態の対象の看護 1) 躁状態の要因 2) 躁状態が日常生活に及ぼす影響 3) 躁状態にある対象・家族への看護	講義 演習	③
10	14. 強迫性障害の対象の看護 1) 強迫性障害の要因 2) 強迫性障害が日常生活に及ぼす影響 3) 強迫性障害にある対象・家族への看護	講義 演習	③
11	15. 身体表現性障害の対象の看護 1) 身体表現性障害の要因 2) 身体表現性障害が日常生活に及ぼす影響 3) 身体表現性障害のある対象・家族への看護	講義 演習	③
12	16. 摂食障害の対象の看護 1) 摂食障害の要因 2) 摂食障害が日常生活に及ぼす影響 3) 摂食障害のある対象・家族への看護	講義 演習	③
13	17. 物質関連障害（アルコール依存、薬物依存）の対象の看護 1) 物質関連障害の要因 2) 物質関連障害が日常生活に及ぼす影響 3) 物質関連障害のある対象・家族への看護	講義 演習	②
14	18. パーソナリティ障害の対象の看護 1) パーソナリティ障害の要因 2) パーソナリティ障害が日常生活に及ぼす影響 3) パーソナリティ障害のある対象・家族への看護	講義 演習	③
15	19. 自傷・自殺企図など緊急な状態にある対象の看護 1) 自傷・自殺企図の要因 2) 自傷・自殺企図が生命・日常生活に及ぼす影響 3) 自傷・自殺企図の対象・家族への看護（胃洗浄を含む）	講義 演習	②

#### 授業の進め方

1～4 講目では、精神看護学概論で学習した精神保健福祉法や精神保健福祉医療における社会資源の知識を活用し授業を行う。特に第2回目の講義では、事例を用い教授することで学生の理解が深まるようにする。また、第3回目の講義では、精神看護学概論で学習した看護師の感情労働、災害時の心的外傷への対応と関連させ授業を行う。

5～15 講目では、各症状の背景にある身体的・精神的・社会的要因を理解し、各症状が対象の生活に及ぼす影響を理解する。その上で対象と家族に必要な看護を考えられるようにする。また、精神医療の急性期治療を理解し必要な看護を教授する。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院)①②③
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院)①②③
3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 (中央法規) ①②③
4. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)②③

#### 評価方法

筆記試験

領域	専門分野Ⅱ（精神看護学）	開講時期	2年後期																								
科目名	精神看護方法論Ⅲ	単位数 (時間数)	1単位 15時間																								
講師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	山田 祐子(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 26年)																										
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>精神障害を有する対象との関わりをロールプレイして、援助的人間関係構築のための基本的な技術を理解する。また関わり場面をプロセスレコードに記述し、看護の対象者や自己の気持ちを振り返る技術を理解する。</p>																											
<p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>1. 精神疾患を有する事例患者の看護過程 ※事例 統合失調症もしくはうつ病 1) 行動のアセスメント (1) 自己概念様式 (2) 役割機能様式 (3) 相互依存様式 (4) 生理的様式</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2) 全体像の理解</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3) 刺激のアセスメント 4) 看護問題の明確化</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5) 看護計画</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6) 事例患者の看護計画の実施 (1) 患者-看護師関係の展開 (2) エンパワメント (3) 共感的理解 (4) 自己一致 (6) フィードバック</td> <td>演習(ロールプレイ)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7) ロールプレイした場面をプロセスレコードに記載 (1) ペプロウの対人的プロセス (2) 患者の気持ち (3) 援助者の気持ち (4) 患者-看護師関係</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8) 事例患者の看護の評価</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1・2	1. 精神疾患を有する事例患者の看護過程 ※事例 統合失調症もしくはうつ病 1) 行動のアセスメント (1) 自己概念様式 (2) 役割機能様式 (3) 相互依存様式 (4) 生理的様式	講義・演習	3	2) 全体像の理解	講義・演習	4	3) 刺激のアセスメント 4) 看護問題の明確化	講義・演習	5	5) 看護計画	講義・演習	6	6) 事例患者の看護計画の実施 (1) 患者-看護師関係の展開 (2) エンパワメント (3) 共感的理解 (4) 自己一致 (6) フィードバック	演習(ロールプレイ)	7	7) ロールプレイした場面をプロセスレコードに記載 (1) ペプロウの対人的プロセス (2) 患者の気持ち (3) 援助者の気持ち (4) 患者-看護師関係	講義・演習	8	8) 事例患者の看護の評価	講義
回	授業内容	授業方法																									
1・2	1. 精神疾患を有する事例患者の看護過程 ※事例 統合失調症もしくはうつ病 1) 行動のアセスメント (1) 自己概念様式 (2) 役割機能様式 (3) 相互依存様式 (4) 生理的様式	講義・演習																									
3	2) 全体像の理解	講義・演習																									
4	3) 刺激のアセスメント 4) 看護問題の明確化	講義・演習																									
5	5) 看護計画	講義・演習																									
6	6) 事例患者の看護計画の実施 (1) 患者-看護師関係の展開 (2) エンパワメント (3) 共感的理解 (4) 自己一致 (6) フィードバック	演習(ロールプレイ)																									
7	7) ロールプレイした場面をプロセスレコードに記載 (1) ペプロウの対人的プロセス (2) 患者の気持ち (3) 援助者の気持ち (4) 患者-看護師関係	講義・演習																									
8	8) 事例患者の看護の評価	講義																									
<p>授業への取り組み方</p> <p>授業開始前までに事例疾患の病態、症状、治療、看護について既習学習内容を復習して臨むこと。</p>																											
<p>授業の進め方</p> <p>事前課題、講義、校内演習、ロールプレイ、を通して、下記を指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ロイの理論を用い患者理解ができるようにする。</li> <li>看護問題の明確化、看護計画の立案時には、患者の持つ力を活用し介入するということが考えられるように進める。</li> <li>看護計画に基づいた看護を演習にて実践する。その実践をプロセスレコードを用い振り返ることで、自分のかかわりが意図的な介入になっていたか、援助的人間関係の形成につながるかかわりであったかを考える機会にする。</li> </ol>																											
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院)</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院)</li> <li>看護診断ハンドブック 第11版(医学書院)</li> <li>エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図(中央法規)</li> </ol>																											
<p>評価方法</p> <p>レポート 筆記試験 授業への取り組み</p>																											